

■令和6年度小中一貫教育推進研究計画書

1 小中一貫教育の取組について

第2期小中一貫教育の取組 の教職員への浸透について 令和6年4月現在	・浸透している	・概ね浸透している	・浸透していない
	定期的な 3 校研究推進委員会の開催や、3校合同研修会を行っていることで、概ね教職員に浸透している。		

※計画書の見方

○「進捗状況について」……………A:検討中 B:着手済み C:令和5年度から継続 D:令和6年度になって見直し

○「具体的な内容」について……【P】:Plan(計画) 【D】:Do(具体的方策)

【C】:Check(チェックの方策、チェックを行った結果) 【A】:Action(今後の取組)

(1) 目指す児童生徒像について

※本項目は、見直しを図った場合は、その理由を明記すること。

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容
1	児童生徒像の設定 共通する目指す	A B C D	<u>ブロックの共通する児童生徒像</u> 【研究主題】 「自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる子どもの育成」 ～自信と誇りを育む学校・家庭・地域の取組～ 【目指す児童生徒像】 「自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる児童・生徒」 <u>学校独自の児童生徒像</u> 『自ら学び、自ら鍛え、自他を尊重し、社会に主体的にかかわる生徒』 「創造」 ・目標を持ち、進んで学習できる生徒 ・人の話をよく聞き、自分の考えが言える生徒 ・分かり、できるまで粘り強く取り組む生徒 「信頼」 ・明るいあいさつや返事ができる生徒 ・思いやりの心を持ち、自他を大切にできる生徒 ・正しい判断に基づき、自ら進んで行動する生徒 ・社会に主体的に関わり、貢献しようとする生徒 「健康」 ・困難に負けず、最後までやり遂げられる生徒 ・自ら進んで心と体を鍛えようとする生徒 ・進んで健康で安全な生活を送る生徒
2	身につけさせたい 資質・能力	A B C D	<u>ブロックでつけさせたい資質・能力</u> 【学力・体力部会】 ・進んで課題を見出して解決し、学び続ける資質や能力 【自己肯定感部会】 ・豊かな心をもち自他を認め、協働して価値を創造する資質や能力 【キャリア部会】 ・集団や社会の担い手として、自らの生き方を切り拓く資質や能力

2	身につけさせたい 資質能力	学校でつけさせたい資質・能力 【学力・体力】 主体性、計画性、粘り強さ、課題解決の過程(把握、情報収集、考察、意見交換、整理、次の課題)を大切に、授業のみならず、生涯にわたり学習する資質や能力 【自己肯定感】 自律、自立、協働、公正、社会性など備え、自他を尊重し、人間関係づくりのスキルを身につけ、進んで挑戦する資質や能力 【キャリア】 集団の中で自立した生活を送り、将来にわたり自己を高め、社会の一員としての自覚と責任、創造力などをもち社会に貢献できる資質や能力
3	合同研修組織の設置	合同研修組織部会名等 ○3校校長会 ……3校の校長が、研究の方針を決定する。 ○3校研究推進委員会 ……3校の教頭・教務（主幹）が校長の方針を受けて、具体的な取組や日程の調整を図る。部会の取組内容の調整を行う。また、検証結果のまとめと改善策を検討する。 ○3校研究部長会 ……3校の教頭・教務（主幹）と3校の各部会の代表（計15名）が、各部会の取組計画や結果等の細部について検討する。 ○3校全体会 ……3校の全職員が研究全体についての共通理解を図る。その後、分科会等を実施する。 ○教科会 ……各教科担当者が、教科の特性に応じた見方・考え方や指導方法などを検討する。 A B C D 学校独自の部会名等 ○学校課題研修推進委員会 校長・教頭・教務主任(研修主任)・各学年からの部員で組織編成。本校の研修の方向性を協議し、推進する。 ○学力向上委員会 各学年からの部員で組織編成。本校の学力向上のための方策を協議し、推進する。 ○学力・体力部会、自己肯定感部会・キャリア部会 小中一貫教育研修と同一の担当で組織編成。校内課題研修の成果を小中一貫教育に反映させる。 ○教科会 各教科担当で組織編成。各教科の特性に応じた見方・考え方や指導方法などを共有し、授業改善に生かす。

(2)小中一貫教育7つの取組

N O	取組 内容	進捗 状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
4	学習過程の工夫 と 学習形態の工夫 (授業における8つのポイントの活用)	A B C D	ブロックでの共通内容・取組内容など 授業での重点 ・Y【読み】「課題を見出し、把握する力」「情報を精査・解釈する力」 ・K【書き】「目的に応じて、相手に分かりやすく、論理的に記述する力」 ・C【コミュニケーション】「相手との共通点・相違点を整理して聞く力」 「相手に分かりやすく論理的に説明する力」 ↓ 中学校では、発達段階を踏まえて【YKC】から【見方・考え方(YKC が内包されているため)】という表現に変え、授業を行っていく。 ・課題や問題を読み取るための見方・考え方を指導する。 ・児童生徒が主体となって課題設定を行う場面を意図的・計画的に取り入れる。 ・ねらいを明確に示し、ねらいに正対したまとめや振り返りを行う。 ・正しい言葉の選択、文章の構成、語彙の量、目的意識などの自分の考えを記入するための基礎を習得させ、文章を書くことを習慣化させる。 ・YKCシート(小学校)等を活用して、自分の考えを記入させる。 ・ペアやグループでの話し合い、教え合いの場面を意図的・計画的に設ける。 ・児童生徒の発表場面をねらいに応じて意図的・計画的に設ける。 ・特に本ブロックの課題である「読む力」「書く力」に重点を置いた指導を実践する。 市が示す「授業における8つのポイント」とブロック内YKCとの関連 1 【学習課題の把握】《Y》 ・「何を学習する」「何ができる」を明確にした課題設定 ・子供にとって身近であり、必要感のある課題設定 ・子供にとって適切な難易度、多様な解法などなどを引き出す課題設定 2 【見通し】《Y》 ・「めあて」や「課題」を解決する方策を考える場の設定 ・予想や仮説、構想などを検討し共有する場の設定 3 【追究・解決】《KC》 ・生徒自身が考える場と時間の確保 ・見方・考え方を働かせ自身の考えに理由や根拠を記入する場の設定 4 【教師の支援】《YKC》 ・授業内外にわたり、個に応じた指導の充実 5 【広げ・深める】《KC》 ・課題等により、ペアや小グループなどで多様な考えに触れる場の設定 ・互いの考えを比較・検討・関連付けをする話し合い ・考えを論理的にまとめる活動の設定 6 【まとめ】《KC》 ・自分の言葉でまとめる時間の確保 ・めあてや課題に正対したまとめとする指導 ・まとめを活用して考える、適用問題、演奏や運動をする機会の設定 7 【振り返り】《KC》 ・自身の変容、仲間の良さを認め、主体的に学ぶ態度の涵養 ・自身の学びの足跡を残す場の設定 ・新たな(次の)学びに繋げる働きかけ ・日常生活や他教科等との関連へと広げる働きかけ 8 【自己肯定感の高揚】《KCと適切な評価》 ・成果、主体的な態度、協働の技能などをあらゆる場面で認め、励ます。 ※市が示す「授業における8つのポイント」は、常に意識した授業実践、改善を実施する。

学校独自の内容・取組

【昨年度を踏まえた今年度の課題】

中学校における【見方・考え方】を教師がいかに意識するかが課題となっている。1単位授業の中で完結する場合と、何回かの授業を積み重ねないといけない場合があり、本時における【見方・考え方】を生徒たちと共有するタイミングに難しさがあった。

【P】

- ①「見方・考え方カード」をいかに活用し、小学校で培ったYKCの取組とのリンクを教師が意識し、生徒と共有するかを考え、実践する。
- ②生徒の変化や伸びを褒め、認める指導を行う。
- ③<越谷市の重点課題：根拠を示しながら自分の考えをまとめ、書いたり表現したりする>
各授業の振り返り、行事のまとめなどの機会に、自分の考え根拠をもってまとめる、書く(表現する)取組を行う。
- ④総合的な学習の時間を活用し、教科等横断的・複合的な問題を毎月行い、普段の授業で学んでいる【見方・考え方】をどう生かしていくのかを実践させる。

【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知

- ①【見方・考え方】を教師自身が意識するようプロセスカードの「見方・考え方カード」を活用する。提示のタイミングは、「目標」や「課題」の提示に合わせて提示したり、授業の中盤に「今やっていることが見方・考え方である」と提示したり、終盤の「まとめ」で提示したりと教師が工夫しながら行う。その際に、「この見方・考え方はYKCでいうところのYにあたるね」など、小学校でのYKCの取組を意識した発言をする。また、「今行っている授業が、将来どのように役に立っていくのか」を少しずつでも生徒に伝え、【見方・考え方】を通した学習の有用性を生徒と共有する。
- ②授業中の発言や机間巡視、提出物などで生徒の良さや変化を見取り、声掛けや認める発言をすることで生徒にフィードバックを行い、授業中の自己肯定感を高められるようにする。
- ③自分の考えを正しく表現すること（語句選び、文章表現、目的意識、分かりやすさ など）について、指導を重ねたり、各授業の振り返り、行事のまとめなどの機会に、自分の考えをまとめたり書いたりする（表現する）取組を研修主任が中心となって計画し、全教職員が計画的に行う。書く視点を示すなどの工夫し、生徒の書く意欲を高めることができるようにする。
- ④総合的な学習の時間を活用し、各学年教師が作成する教科横断的・複合的な問題を毎月行い、普段の授業で学んでいる見方・考え方をどう生かしていくのかを実践させる。生徒にただやらせるのではなく、教師がアドバイスしたり、生徒同士で話し合わせたりするなど工夫しながら時間を充実させる。

Vol. 7 (数学、社会、国語)

Power To Live

年	組	番	氏名
1941	1	1	山田 一郎
1941	1	2	山田 二郎
1941	1	3	山田 三郎
1941	1	4	山田 四郎
1941	1	5	山田 五郎
1941	1	6	山田 六郎
1941	1	7	山田 七郎
1941	1	8	山田 八郎
1941	1	9	山田 九郎
1941	1	10	山田 十郎
1941	1	11	山田 十一郎
1941	1	12	山田 十二郎
1941	1	13	山田 十三郎
1941	1	14	山田 十四郎
1941	1	15	山田 十五郎
1941	1	16	山田 十六郎
1941	1	17	山田 十七郎
1941	1	18	山田 十八郎
1941	1	19	山田 十九郎
1941	1	20	山田 二十郎
1941	1	21	山田 二十一郎
1941	1	22	山田 二十二郎
1941	1	23	山田 二十三郎
1941	1	24	山田 二十四郎
1941	1	25	山田 二十五郎
1941	1	26	山田 二十六郎
1941	1	27	山田 二十七郎
1941	1	28	山田 二十八郎
1941	1	29	山田 二十九郎
1941	1	30	山田 三十郎
1941	1	31	山田 三十一郎
1941	1	32	山田 三十二郎
1941	1	33	山田 三十三郎
1941	1	34	山田 三十四郎
1941	1	35	山田 三十五郎
1941	1	36	山田 三十六郎
1941	1	37	山田 三十七郎
1941	1	38	山田 三十八郎
1941	1	39	山田 三十九郎
1941	1	40	山田 四十郎
1941	1	41	山田 四十一郎
1941	1	42	山田 四十二郎
1941	1	43	山田 四十三郎
1941	1	44	山田 四十四郎
1941	1	45	山田 四十五郎
1941	1	46	山田 四十六郎
1941	1	47	山田 四十七郎
1941	1	48	山田 四十八郎
1941	1	49	山田 四十九郎
1941	1	50	山田 五十郎
1941	1	51	山田 五十一郎
1941	1	52	山田 五十二郎
1941	1	53	山田 五十三郎
1941	1	54	山田 五十四郎
1941	1	55	山田 五十五郎
1941	1	56	山田 五十六郎
1941	1	57	山田 五十七郎
1941	1	58	山田 五十八郎
1941	1	59	山田 五十九郎
1941	1	60	山田 六十郎
1941	1	61	山田 六十一郎
1941	1	62	山田 六十二郎
1941	1	63	山田 六十三郎
1941	1	64	山田 六十四郎
1941	1	65	山田 六十五郎
1941	1	66	山田 六十六郎
1941	1	67	山田 六十七郎
1941	1	68	山田 六十八郎
1941	1	69	山田 六十九郎
1941	1	70	山田 七十郎
1941	1	71	山田 七十一郎
1941	1	72	山田 七十二郎
1941	1	73	山田 七十三郎
1941	1	74	山田 七十四郎
1941	1	75	山田 七十五郎
1941	1	76	山田 七十六郎
1941	1	77	山田 七十七郎
1941	1	78	山田 七十八郎
1941	1	79	山田 七十九郎
1941	1	80	山田 八十郎
1941	1	81	山田 八十一郎
1941	1	82	山田 八十二郎
1941	1	83	山田 八十三郎
1941	1	84	山田 八十四郎
1941	1	85	山田 八十五郎
1941	1	86	山田 八十六郎
1941	1	87	山田 八十七郎
1941	1	88	山田 八十八郎
1941	1	89	山田 八十九郎
1941	1	90	山田 九十郎
1941	1	91	山田 九十一郎
1941	1	92	山田 九十二郎
1941	1	93	山田 九十三郎

[illegible]

【問題】これからかかる様々なお金の面を考えたときに、どのような選択があり、あなたならどのような選択をしますか？ 様々な計算をして考えてみましょう。

【家族構成】 あなた（35歳）、奥さん（旦那さん）、5歳の子

[illegible]

現在の歩行距離は18万kmを超えています

Vpl.7 (数学、社会、国語)

Power To Live

[illegible]

Vol. 7 (教育, 社会, 経済)

Power To Live

(問題) 新車 買10年 下取450万円
 年4% 10年 9600円 / 780km走行可
 新車 500万円
 電気10 2000円 / 500 km走行可
 (定) 10年、20年乗り継ぎ場合
 新車は月2の給油代から10年 60002 = 9200円
 新車は月1の給油代から10年 33と定額33と
 1000 ÷ 500 = 約2回 7割 10年 2000 × 3 = 6000円
 19200 - 6000 = 13200 10年 13200円の差がある
 19200 × 12 = 2304000 10年にかかる
 8000 × 12 = 96000 10年にかかる
 2304000 - 96000 = 2208000 10年かかる
 " 8000 = 460800 20年かかる
 72000 10年 = 720000 10年かかる
 " 720 144000 20年かかる
 新車の車は下取りを20%と800万円買入とが定額。
 20年乗り継ぎ 4608000 - 1440000 = 3168000
 4608000 - 3168000 = 1340000 最新の機械式
 新車を買うとが定額から新車に20%の差

【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。

- ①C－【D①】「見方・考え方」に係るアンケート、「学校生活振り返りアンケート」No1、5、7、8
②C－【D②】「授業改善・生活アンケート」 No11
③C－【D③】「授業改善・生活アンケート」 No2
④C－【D④】各学年の取組状況と生徒の回答の確認
⑤C－【D①～④】県学調・全学調における市・県平均以上、東部地区テスト平均以上、越谷市検証テスト市平均以上、1・2年実力テスト平均以上。【No.9 参照】

5	板書計画の習慣化とノート指導の統一化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・課題を必ず板書するなどの型を共有する。 ・課題とまとめ、振り返りを中心に1時間の流れのわかる板書を徹底する。 ・「YKCシート(小学校)」等を活用して、自分の考えを記入する場面を設ける。 ・ノートが児童生徒にとって学びの足跡となるように、適時、評価や声掛けをする。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 <u>ICT の活用を多くしたことと板書量がやや減った教師がいる。しかし、生徒の学力が落ちたわけではなく、むしろその教科の学力テストの学年平均偏差値が上昇した。ICT と同時にプリントも活用していた。これを踏まえて、「ICT 機器の活用と板書・プリント」の相関関係や、ノートづくりについて昨年度に引き続き考えていく必要がある。</u> 【P】 ①年度当初の校内研修で、研修主任が主体となり、板書についての共通理解事項として、板書に必ず「目標」や「課題」を示すこと、終末に「まとめ」「振り返り」の時間を確保し、生徒に書かせることを確認し、全教師で実践する。 ②生徒が思考をまとめるツールとして、ワークシートを活用すると効果的な場面があることや、文字で考えをまとめる・書字スピードに課題があるなど、特別支援教育的な支援を必要とする生徒のために記述する量を調整する工夫することを、全職員で共通理解した上で、ノートやワークシート、ICT を効果的に組み合わせ、学習内容を身につけさせていく。 ③ノートや学習プリントに、自分の考えを記入させる欄を設ける。 ④見本となるノート、プリントなどを紹介して共有化を図る。自分で分かりやすく工夫してまとめている生徒のノートを廊下に見本として掲示する。 【D】 ※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 ①「目標」や「課題」を示すこと、終末に「まとめ」「振り返り」の時間を確保し、生徒に書かせるとともに、目標や課題等をモニターで映したりプリントにしたりする場合には、そこに「目標」「課題」等の表示を入れるなど、ICT と板書に基本的な差がないようにする。 ②教師が板書している時間を極力減らし、生徒が思考し自分の考えを書いたり、話し合ったりする時間を最大限に増やせるようにする。例えば、書き写せばよいだけのものはあらかじめプリントに印字しておいたり、モニターに表示させたりして教師が書いている時間を減らすことで活動時間を増やす。 ③ノートやプリントに自分の考えや回答を書く欄を設けることはもちろんのこと、教師が話したことで大事だと感じたことをメモするなど、プラスαの学習をするように促していく。 ④自分の考えを根拠をもってよく書いていたりメモなどが書かれたりしたノートやプリントを紹介していく。 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 ①C－【D①】「学校生活振り返りアンケート」No1、7 及び教師への聞き取りとプリント等の確認、管理職による校内巡視 ②C－【D②】「授業改善・生活アンケート」 No2 及び教師への聞き取り、管理職による校内巡視 ③C－【D③】「学校生活振り返りアンケート」No2 ④C－【D④】教師への聞き取りと生徒のノートやプリントの確認
---	--------------------	---

6	生活規律の共有化	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・「大袋アプローチ 生活規律」の継続・徹底を図る。全教室に掲示。 【大袋アプローチ 生活規律】 ①相手を見て気持ちの良いあいさつや返事をする。 ②時間を考えて行動する。 ③学校をきれいにする。 ・大袋アプローチチェックシートを活用して意識の高揚を図る。 ・実践を通して、内容の見直しを図る。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 1人1人の基本的な生活習慣や礼儀、あいさつなどは概ね達成できている。しかし、集団になった際に、ややできなくなってしまうことがある。集団活動におけるメリハリをさらにつけさせる必要がある。昨年度の計画を見直し以下の取組とする。 【P】 ①生徒会や学年委員会、専門委員会などで、生徒主体で課題を見出し、解決するための取組を実践するように指導する。特に「あいさつ・返事・廊下歩行・SNS」を重点とする。 ②施設・設備を大切に扱う指導を行い、清掃や安全点検を主体的に行う態度を育てる。毎月1回の安全点検を教員が行うとともに、生徒へも施設・設備に異変や破損箇所が見つかったらすぐに報告するよう指導し、安全についての関心を高めるようにする。 ③生徒の心情に寄り添った生徒指導、「ならぬものはならぬ」と言った毅然とした指導と根拠を明確にした指導を行い、現在の規律を維持する。 A 【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 B ①相手の心に届くあいさつ、静かな廊下歩行、2分前着席など、基本的な生活習慣を身につけ実践させる。 C ②公共の施設で生活していることや自分一人のものではないことを指導し、施設・設備を大切に扱うことと正しく安全に使用することを指導する。 D ③積極的生徒指導を行うとともに、道徳や学活、行事などを含め集団生活における規律と自他の人権の尊重について指導、啓発する。 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 ①C－【D①】「授業改善・生活アンケート」 No8 及び「学校生活振り返りアンケート」No18 ②C－【D②】故意の施設・設備の損壊や施設・設備による生徒のケガ・事故0 ③C－【D③】「授業改善・生活アンケート」 No9 及び「学校生活振り返りアンケート」No19、20
---	----------	--

7	学習規律の共有化	ブロックでの共通内容・取組内容など ・「大袋アプローチ 学習規律」の継続・徹底を図る。全教室に掲示。 【大袋アプローチ 学習規律】 ①開始時刻までには準備を整え、あいさつをする。 ②相手を見て最後まで話を聞く。 ③指名されたら「はい」とはっきり返事をする。 ・大袋アプローチチェックシートを活用し、学習規律について意識の高揚を図る。【No.6の再掲】 ・実践を通して、内容の見直しを図る。【No.6の再掲】 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 概ね達成できているが、強化が必要な項目もある。 【P】 ①<越谷市の重点課題：規範意識の育成と自己肯定感の高揚> 生徒指導委員会、教育相談委員会で、落ち着いた学習環境をつくるための教員の指導について検討する。また、アンケートの評価が低い生徒、無気力な態度が気になる生徒については、実態把握とそれを踏まえて手立てを講じ、共通理解のもとで指導にあたる。 ②No.4「学習過程の工夫と学習形態の工夫」、No.5「板書計画の習慣化とノート指導の統一化」との関連を図り、生徒が見通しをもって学習に臨めるように指導を行う。 【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 ①「誰かが発言し始めたら静かにそちらを見る」「授業中の私語0」「楽しく授業を受けることと騒ぐことは違う」といった基本的な事項について、生徒指導担当および生徒会担当が学級委員や生徒会など組織を活用して生徒の中から啓発を行う。また、日頃から机間指導を通して生徒の様子を把握し、理解度の低い生徒に対しては特別支援教育的配慮も視野に入れた学習指導を行う。 ②No4、5再掲 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 ①C－【D①】「授業改善・生活アンケート」 No7－1、7－2 ②C－【D②】No4、5 再掲 【D】
---	----------	---

8	家庭学習の統一化 (家庭との連携)	ブロックでの共通内容・取組内容など ・家庭学習チェックシートを継続する。 ・月1回の家庭読書の日を継続する。 ・保護者アンケートによる成果の確認を継続する。 ・家庭学習の手引きを見直し、児童生徒・保護者に浸透させる手立てを講じる。 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 塾に行き始める生徒が多くなり、純粋に家での家庭学習は減る傾向にあるが、家庭学習において、課題を課す等、家庭との連携が必要な生徒もいる。家庭との連携を強化するとともに、学習理解が不足している生徒には個別に声をかけ、課題を課す必要性も出てきている。 【P】 ①テスト期間に重点的に設定した「学力向上 week」では、学習計画表の作成や評価の流れで生徒の学習への意識化と意欲の向上を図る。また、各学年でテスト期間外でも必要に応じて設定する。 ②各学年の廊下に「家庭学習プリントコーナー」をつくり、生徒が家庭学習の中で、自主的に小テストや反復学習を行えるようにする。 ③学年だよりや学級だよりで、家庭学習に関係する取組を紹介し、保護者の協力と連携を図る。 【D】 ※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 ①家庭での学習時間が短い生徒に関しては、保護者と連携をしながら学校から課題を課すなど、家庭の協力を得ながら基礎基本の定着を図れるようにしていく。 ②他学年のプリントも置けるようにし、過去にさかのぼって学習をしたり、進んでいる生徒は上級学年の学習ができるようにしたりする。また、タブレットにおけるAIドリルの活用も行う。 ③県のホームページにある家庭学習の進め方などを各種たよりで紹介し、家庭学習を促す。 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 ①C－【D①】「学校生活振り返りアンケート」No10 ②C－【D②】コーナーの設置とプリント類、AIドリルの活用状況の確認 ③C－【D③】定期的な家庭学習に関しての啓発状況の確認

(3)学力向上のためのブロックオリジナルの取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
9	各種学力調査の分析	A B C D	<u>ブロックでの共通分析結果等(令和5年度)</u> ・全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査の結果より、「話し合いの話題や方向を捉えること」、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くこと」、「ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること」「知識を活用すること」などに課題が見られる。また、正答率の分布では、二極化が見られるが、手立てを講じることで、部分的ではあるが学力の底上げが進みつつある。 ・質問紙調査では、非認知能力や家庭学習等についての実態を把握し、研究実践の指標とする。 ・体力テストの結果を共有し、体育の授業や体育的活動の改善を図る。 <u>学校の分析結果(令和5年度)</u> 検証テストでは、英語に課題がみられる学年がある。特に英作文の正答率が低く、英作文の練習をする必要がある。また、理科の課題としては、特に電磁誘導における記述に課題がみられる。これらに関して再度教科で確認し、取り組んでいく。また、その他の部分においても結果を確認している。【No.4 参照】 【今後の取り組み】【No.4, 5 再掲】 ○【見方・考え方】を教師自身が意識するようプロセスカードの「見方・考え方カード」を活用する。提示のタイミングは、「目標」や「課題」の提示に合わせて提示したり、授業の中盤に「今やっていることが見方・考え方である」と提示したり、終盤の「まとめ」で提示したりと教師が工夫しながら行う。その際に、「この見方・考え方は YKC でいうところの Y にあたるね」など、小学校での YKC の取組を意識した発言をする。また、「今行っている授業が、将来どのように役に立っていくのか」を少しずつでも生徒に伝え、【見方・考え方】を通した学習の有用性を生徒と共有する。 ○授業中の発言や机間指導、提出物などで生徒の良さや変化を見取り、声掛けや認める発言をすることで生徒にフィードバックを行い、授業中の自己肯定感を高められるようにする。 ○自分の考えを正しく表現すること(語句選び、文章表現、目的意識、分かりやすさ など)について、指導を重ねたり、各授業の振り返り、行事のまとめなどの機会に、自分の考えをまとめたり書いたりする(表現する)取組を研修主任が中心となって計画し、全教職員が計画的に行う。書く視点を示すなどの工夫し、生徒の書く意欲を高めることができるようにする。 ○総合的な学習の時間を活用し、各学年教師が作成する教科等横断的・複合的な問題を毎月行い、普段の授業で学んでいる見方・考え方をどう生かしていくのかを実践させる。生徒にただやらせるのではなく、教師がアドバイスしたり、生徒同士で話し合わせたりするなど工夫しながら時間を充実させる。 ○「目標」や「課題」を示すこと、終末に「まとめ」「振り返り」の時間を確保し、生徒に書かせるとともに、目標や課題等をモニターで映したりプリントにしたりする場合には、そこに「目標」「課題」等の表示を入れるなど、ICT と板書に基本的な差がないようにする。 ○教師が板書している時間を極力減らし、生徒が思考し自分の考えを書いたり、話し合ったりする時間を最大限に増やせるようにする。例えば、書き写せばよいだけのものはあらかじめプリントに印字しておいたり、モニターに表示させたりして教師が書いている時間を減らすことで活動時間を増やす。 ○ノートやプリントに自分の考えや回答を書く欄を設けることはもちろんのこと、教師が話したことで大事だと感じたことをメモするなど、プラスαの学習をするように促していく。 ○自分の考えを根拠をもってよく書いていたりメモなどが書かれたりしたノートやプリントを紹介していく。
10	系統図・単元配列表の活用	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・「つまずき」箇所についての解決策を検討・共有し実践する。 ・教科会などで、系統図を確認し活用する。(指導案作成時には、系統性を記入する) ・小中間で深く関連する単元の扱い方や評価(テスト)についての情報交換を行い、指導に生かす。 ・越谷市教育委員会指導主事を講師としての研修会を実施する。

10	系統図・単元配列表の活用	<u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 <u>小学校での既習事項や中学校における前学年の既習事項などを、なるべく授業の中で思い出させるようにしている。また、大袋中ブロック3校合同研修会では、小学校の教員と教科会を持ち、各教科の系統性について確認をしている。</u> A B ☒ 【P】 <u>①既習事項の確認を各教科で行いながら授業を進める。</u> D 【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 <u>①各教科で小学校や中学校における前学年の既習事項を生徒に思い出させ、それがどのようにつながっているのかを意識させながら授業を行う。</u> 【C】管理職による確認 <u>①C－【D①】教師への聞き取り</u>
11	キャリア教育	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・9年間を見通したキャリア教育の実践と系統的指導に取り組む。(特別活動、総合的な学習の時間を中心に) ・キャリアパスポートの効果的な活用について研究を進める。 ・生活の基盤となる学級経営について研究を進める。 ・一人一人の参画意識を高めるとともに、豊かな人間性を育むことをねらいとし、体験活動や各種行事の充実を図る。 <u>学校独自の内容・取組</u> 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 <u>昨年度は2学年で社会体験チャレンジ事業における2Daysを実施した。今年度以降は、社会体験チャレンジの目的達成のため、外部講師から話を聞くなど、より生徒にとって価値があるようにしていく。</u> A B ☒ 【P】 <u>①計画されている進路学習が生徒にとって価値があるように工夫改善をして実施する。</u> <u>②キャリア部会で、9年間を見通した計画や重点指導などを検討し、共通理解の上で実践する。</u> <u>③各学年における進路キャリア学習を、特別活動や総合的な学習の時間だけでなく、様々な教科と結び付けて指導していく。</u> D 【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 <u>①2Daysに代わる進路学習会を企画し、特定の職種だけでなく、幅広く学ぶことができるようにする。また、他学年においても発達段階に応じた進路学習を行う。</u> <u>②3校部長会を行い、キャリア部会における指導計画を系統性を考えながら立案し、実践する。</u> <u>③各教科において、今の学びが社会でどのように生きてくるのかを生徒に伝え、学習の有用性と将来への見通しを考えられるよう指導していく。</u> 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 <u>①C－【D①】年間計画と学習内容の確認</u> <u>②C－【D②】3校部長会における9年間を見通した計画の確認</u> <u>③C－【D③】「学校生活振り返りアンケート」No29、30、31</u>

(4)自己肯定感の高揚への取組

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D C Aで記入)
12	越谷市授業改善・学校生活に関するアンケートの分析	A B C D	<u>ブロックでの共通分析結果等</u> ・市11「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」を肯定的な回答をする児童生徒の割合は高い。教職員のアンケートでも同項目の割合は高いため、引き続き「認め」「励ます」指導について、共通理解を図り、実践する。 ・市10「自分には良いところがある」12「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する」を肯定的な回答をする児童生徒の割合に課題がある。学年が上がるにつれ、自分に自信がない児童生徒が増加する傾向にあるため、「認め」「励ます」指導と共に、成功体験を積ませるための手立てを講じる。 <u>学校の分析結果</u> 教師からは認めてもらっているが、自己肯定感の向上にはつながっていない。あるいは、自己肯定感につながった結果がこの数値なのかもしれない。受験期の生徒は特に学習への不安から自己肯定感が下がる傾向にある。自己肯定感の向上には家庭との連携が不可欠である。また、生徒の謙虚さによって『自分にはよいところがない』と判断する生徒も多い。『少しだけでもよいところがあれば、それに自信をもとう』と教師が言葉をかけていくようにする。
13	自己肯定感を授業の中で高める取組	A B C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・各教科・領域の授業において、「良い点を積極的に認める」「仲間と高め合う」場面を意図的に増やし、自己肯定感を高める。 ・「分かる授業」「成長を実感できる授業」「次の学習を楽しみにする授業」を目指して授業改善を図る。 <u>学校独自の内容</u> <u>【昨年度を踏まえた今年度の課題】</u> 「先生は認めてくれている」と回答している生徒の割合は非常に高い。しかし、「自分にはよいところがある」の回答はそれよりも低い。この差を少しでも埋められるように以下の取組を行う。 【P】 ①協働的な活動、話し合い、学び合いの場面を多く設定する。(No4【P】②参照) ②全教育活動を通じてスモールステップでの「挑戦」する場面を多く設定し、挑戦する実感を味わわせ、成果を積極的に認める。 ③教室の雰囲気落ち着いて学習できる雰囲気にする。 【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 ①協働的な活動、話し合い、学び合いの場面での机間指導や挙手発言の際に、教員の褒める・認める声掛けや評価を意図的に行い、よさを具体的かつ的確に伝えるようにする。 ②小テストや比較的優しい問題に取り組みせながら挑戦する実感を味わわせ、成果を積極的に認める。 ③支持的風土づくりのための生活規律・授業規律を徹底する。【No6・7 再掲】 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 ①C-【D①】「授業改善・生活アンケート」 No10、11 ②C-【D②】「授業改善・生活アンケート」 No12、14 ③C-【D③】「授業改善・生活アンケート」 No7-1、7-2

14	自己肯定感を授業以外の場面で高める取組	ブロックでの共通内容・取組内容など ・学年、学級での取組を充実させ、発達段階に応じて個と集団の成長を図る。 ・児童生徒の社会性を高め、よりよい人間関係を築くためにソーシャル・スキルトレーニングを実施する。 ・道徳教育の充実を図る。(道徳コーナー、相互授業参観、道徳の系統表) ・「いじめ問題」の早期発見、積極的認知、早期対応、継続支援を実践する。 ・教育相談部会で学校間の連携を図る。(情報共有シート活用) ・特別支援教育部会で学校間の連携を図る。 学校独自の内容・取組 【昨年度を踏まえた今年度の課題】 「学校に行くのは楽しい」「授業の内容が分かる」「友達と仲良くできている」と答えている生徒の割合はかなり高い。学校へ行くことの楽しさが上がるということは、自分の生活にも、ある程度満足ができていくということにつながるため、以下の取組を行う。 【P】 ①学年、学級などで生徒主体の活動を多く設定し、生徒自身が目標をもって主体的に活動できるようにする。 ②自主的、自治的な部活動運営を行い、生徒自身が考え、成長する場をつくる。 ③毎週定期的に行われる生徒指導委員会及び教育相談委員会で、生徒の情報を共有する。 ④いじめ等の問題の早期発見・早期対応のために、計画的にアンケートを行い、指導に生かす。 【D】※全教職員が実施するために、以下の取組を年度当初の校内研修にて研修主任より周知 ①学年、学級で何かを企画する場面で、生徒から案を出し、学級討議を経て決定していくなど、生徒自身が目標や責任をもって主体的に活動できるようにする。 ②自主的、自治的な部活動運営を行い、生徒自身が考え、成長する場をつくる。 ③毎週定期的に行われる生徒指導委員会及び教育相談委員会で、生徒の情報を共有するとともに、必要に応じてケース会議を実施したり、学校相談員やスクールカウンセラーとのつながりをもつ機会をつくったりするなど、安心して通える学校づくりを行う。 ④いじめ等の問題の早期発見・早期対応のために、計画的にアンケートを行い、指導に生かす。また、日々の教室訪問や教職員との会話の中で、生徒の活動を把握。善行賞(ポプラ賞)として、毎学期表彰する。 【C】※研修主任が中心となり分析する。その後、教科会で分析し、再度研修主任が総括して分析する。 ①－【D①②】「授業改善・生活アンケート」 No13、15 ②－【D③】「授業改善・生活アンケート」 No10、11 ③－【D④】生徒指導委員会、教育相談委員会など様子、教師への聞き取り。
----	---------------------	---

(5)学校間の交流

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
15	(行事・学習・作品など) 児童生徒間の交流 流	A B ☒ C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・合同避難訓練(引き渡し訓練) ・学校公開、部活動見学 ・小中合同あいさつ運動 ・生徒会・代表委員会の児童生徒の交流、話し合い活動 ・中学生の作品(美術作品、書写作品など)を小学校に展示 <u>学校独自の内容</u> 【P】 体育祭、学校公開、説明会、部活動見学などの中学校の実態を知る機会を増やす。 【D】 作品の交流や合同あいさつ運動に加え、体育祭、学校公開、説明会、部活動見学など中学校の様子が分かる機会に小学生や保護者に向けて PR を行う。
16	(合同部会、合同研修、相互授業など) 教師間の交流	A B ☒ C D	<u>ブロックでの共通内容・取組内容など</u> ・3 校研究推進委員会を実施する。(適宜) ・3 校研究部長会を実施する。(年 3 回) ・合同全体会を実施する。(年 2 回) ※3部会、教科会を含む。 ・小中相互授業参観を実施する。 ・小中一貫教育フォルダ、学校系ネットワーク「メッセージ」を利用して、情報交換・共有を行う。(適宜) <u>学校独自の内容・取組</u> 【P】 ①職員が所属している部会だけでなく、研究全体について理解できるように校内研修を充実させる。 ②相互授業参観では、共通の参観用紙を用いて、参観の視点を統一して情報共有を図る。 【D】 ①研修主任を中心に、本校のブロックで行われている取組を校内研修で職員に周知させるとともに、3校合同研修会においても進捗状況や情報交換を行い、相互理解を図る。 ②支援担当訪問を良い機会と捉え、小中お互いの授業を参観する。

(6)保護者・地域連携(人材活用、情報発信など)

NO	取組内容	進捗状況	具体的な内容 (P D で記入)
17	情報発信と協力		ブロックでの共通内容・取組内容など ・学校運営協議会において小中一貫教育について議題とする。 ・各校のホームページに小中一貫教育に関する情報を掲載する。
		A	学校独自の内容 【P】
		B	①学校運営協議会において、学校の実態や研究について理解をいただく場面を設定する。 ②積極的に学校公開を行う。
		☐ C D	【D】 ①学校運営協議会において、小中一貫教育がどのように行われているのかを説明するとともに、学校行事や授業参観にお招きし学校の様子を見ていただく。 ②学校公開や研究発表会等に学校運営協議会委員や PTA を招いたり、校内美化活動に小学校のおやじの会に参加していただいたりするなど連携を図る。